

5 月号

26.4.24

～GW始まりますね。行楽日和を願います～



川口肥料ニュース

今年も暑さ、蒸れに嚴重注意！



気象庁は日最高気温が40℃以上の日を「酷暑日」と命名し、高温やそれに伴う多湿が今年も続くと予想しています。高温多湿は人間・作物にとっては厄介ですが、病原菌にとっては繁殖しやすい条件のため、今年の病気対策には全く油断ができません。

自然の摂理を利用した菌資材「つぶトリコン」

- 病気への対策**
- ①薬剤での防除：適期適剤の選択が生産者の腕のみせどころ
 - ②抵抗品種の導入：品種特性の見極めが難しいですが、達効あり（有効成分が害虫、病原菌、植物体などの対象の奥深くまで急速に達し、高い効果を発揮する）
 - ③作物の強化：土づくりや栄養補給で作物の能力を引き出そうが基本ですが、今注目は**④菌の活用**です。

④菌の活用

「菌をもって菌を制す」自然の摂理を活かす農法や資材で病原菌の激発を抑えるには、少しコツが必要ですが、非常に有効な手段です。

高温多湿、酸性土壌で発生しやすい糸状菌（カビ）が原因の幅広い病気の備えには、同じく「高温多湿、酸性（多雨で石灰流亡した露地）」を好むトリコデルマ菌「つぶトリコン」が特に好適です。例年以上の高温が懸念される本年、ご留意ください。

菌資材を上手く使う方法

- ◎エサを与える（菌も生き物、腹が減っては戦はできぬ）
- ◎土壌pHに注意する（菌の増殖に影響大）
- ◎最初しっかり施用（土着菌の増殖に負けず生き残るため）
- ◎トリコデルマの継続使用（土着菌の維持）

上記4点に特化する**ソイサポ**、**ルネサンス**、**つぶトリコン**をきちんと使っていきましょう。

トリコデルマ菌の大好物のセルロース（ワラや米ぬか、落ち葉等）を土に入れたり、稲わら堆肥や落ち葉堆肥と併用したりすることがおすすめです。

堆肥混用使用時は、酸性条件とするために食酢や木酢液を250倍程度に希釈ししっかりとりする程度加え（ベチャベチャするほどは不要）切り返すと良いでしょう。

20～30℃で2週間ほど発酵後、一層の効果が期待できます。

病気激発圏場では、「**土壌消毒の後**」に**ソイサポ**、**ルネサンス**、**つぶトリコン**を施用することにより有効菌を先住させ、その後は継続的に菌を補給すると良いでしょう。

おすすめ商品



川口肥料株式会社

〒437-1416 静岡県掛川市三俣902

☎ 0537-72-2663



川口肥料 HP



松下ライン